

電気通信大学 平成16年度シラバス

授業科目名	現代科学技術論		
英文授業科目名	Modern Science and Technology		
開講年度	2004年度	開講年次	2年次
開講学期	3学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	専門科目-専門共通科目-選択必修科目		
開講学科・専攻	人間コミュニケーション学科		
担当教官名	H全教員(世話人 深澤浩洋)		
居室	東1-409		

公開E-Mail	授業関連Webページ
fukasawa@hc.uec.ac.jp	

【主題および達成目標】
<p>この科目は人間コミュニケーション学科の基幹科目のひとつで、1年次の基礎セミナーに引き続いて、学科教員が(交代で)担当します。3学期終了後、学科教員がオムニバスで行う講義です。 この科目の目的は以下の通りです。</p> <p>1)「コミュニケーションをめぐる科学技術とその社会的・文化的応用」という学科の中心的な教育・研究領域に関して、先端的な知・問題群を学習する。 2)あわせて各講座・研究室でおこなわれる専門研究を概観する。 3)これによって、高年次における勉学へのイントロダクションとする。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
特になし

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
特になし

【教科書等】
個別に教員から資料が配布されることがある。

電気通信大学 平成16年度シラバス

【授業内容とその進め方】

2004年度は、集中講義のかたちで授業をおこない、人間コミュニケーション学科を構成する3領域「社会コミュニケーション学」「メディアコミュニケーション」「科学技術コミュニケーション学」のそれぞれに関して、講義・演習・見学等をおこないます。

1) 9月21日：社会コミュニケーション学

中島義道：社会科学の方法 特に「客観性と合理性」について
福田 豊：テクノ・ソシオパラダイムの転換とIT
梶浦 篤：コンピューターをめぐる日米関係
坂本真樹：広告コミュニケーションの諸問題

2) 9月22日：科学技術コミュニケーション学

中田良平：電子材料の発展と応用
中嶋信生：携帯電話技術の進歩と問題点
吉浦 裕：ネットワークセキュリティ技術
深澤浩洋：テクノロジーと遊び

3) 9月24日：メディアコミュニケーション学

児玉幸子：現代科学技術によって作られる環境
佐山弘樹：柔らかな機械としてのコンピュータ：その根底にある思想と今後の可能性について
兼子正勝：メディアのコンテンツデザインの基本的な考え方と現代的な課題およびディスカッション

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

評価は出席とレポートでおこないます。

- 1) 出席：履修者は原則としてすべての講義に出席すること。
- 2 レポート：締め切りは9月30日（厳守）、提出は西6号館7Fレポートボックス
- 3) 課題：
授業で取り上げたトピックのうち2つ以上を選んで、それぞれについて
a)講義から理解したこと、b)理解をもとに自分で考察したこと、
の2点を、なるべく具体的な例を挙げて述べなさい
- 4) 分量：それぞれのトピックについてA4*1枚（約1,000字）以上（計2枚以上）
- 5) その他：それぞれの講義でとくに指示がある場合は、それにしたがうこと

【オフィスアワー：授業相談】

【学生へのメッセージ】

電気通信大学 平成16年度シラバス

【その他】